

第9回 無意識に餌付けをしていませんか？

農研機構 畜産研究部門 動物行動管理研究領域 堂山宗一郎氏

もし皆さんの近所でイノシシやシカに餌付けが行われていたらどう思いますか？実は、全国の集落周辺で人間が無意識に野生動物に対して餌付けをしている状況があります。

奈良公園のシカにせんべいをあげるようなこととは違います。無意識にやっていることなので、まさかこれが餌付けになっているとは、と思うものばかりです。例えば稲の二番穂。早稲品種であれば早ければ8月中旬から稲刈りが始まります。早く刈った稲の切り株から出たヒコバエは生長し、11月ごろには二番穂を出し、条件が良ければ粃に米が実ります。調査をすると、二番穂の米をイノシシやシカが毎晩美味しそうに食べていることが分かりました。同様に、誰も収穫しなくなり放棄された柿なども野生動物の餌になっていることが分かりました。柿はクマで話題になりますが、地面に落ちた実をイノシシやシカがたくさん食べ、時には後ろ足で立ち上がり、枝に付いている

実まで食べていることはあまり知られていません。

野生動物にとって冬を乗り切るためにたくさん食べなければならない秋に、長時間餌を探さなくても田んぼで二番穂を、集落で放棄された柿の実を食べれば短時間でお腹いっぱいになれます。イノシシやシカは、自由にたくさん食べられるものが集落周辺にあることに気づき、一年中そこに居着き始め、様々な被害を出してしまいます。近くにおいてほしくないイノシシやシカに、皆さんも無意識に餌を与えていないか確認してみましょう。

